

パナソニックエコテクノロジーセンター——地域社会・エコ・工場の有機的統一

華北電力大学学生代表

見学日時：2017年11月29日（水）09:30-11:30

見学場所：パナソニックエコテクノロジーセンター



見学概要

今日は訪日二日目で、私たちはパナソニックエコテクノロジーセンターの見学に訪れた。

同センターは広い田畑に囲まれていたが、これは私たちが予期していない情景であった。中国国内においては、こうしたごみのリサイクル工場は水源や田畑から離れた場所に設置される。パナソニックエコテクノロジーセンターがこうした自然環境の中にあることは、きっと同センターの日頃の努力と切り離すことができないと考えられる。その後の解説を通じて、私たちは同センターが環境保全や周辺住民との調和のとれた共存のために、毎年環境検査データの公開の他、さらに定期的に周辺住民との意見交換を行っていることを知った。

スタッフの案内の下、私たちはまず会議室に入り、そこから見学が始まった。私たちはパナソニックエコテクノロジーセンターのスタッフからの熱烈な歓迎そして挨拶をいただいた。今回の見学は四つの部分からなる。以下に順を追って説明していく。

初めは会社紹介であった。その紹介を通じて私たちは、同センターの主な事業は使用済み家電のリサイクル処理で、さらにリサイクル技術の研究開発を専門に行う技術研究センターを設置していることを知った。2001年の創業開始から現在まで、同センターでは累計1000万台以上の使用済み家電を処理しており、環境保全そして資源の節約に非常に大きな貢献をしている。また同センターは日本で唯一見学可能な家電リサイクル工場であり、さらに環境保全教育における公開教育拠点として毎年多くの学生が訪れ環境保全と家電リサイクルについての教育を受けている。

次は、日本の家電リサイクルに関する法律の紹介であった。現在、日本では2001年に施行された『家電リサイクル法』を基に使用済み家電のリサイクル行為について取り決めを行っているが、同法では、小売・量販事業者は回収の義務、消費者は使用済み家電の引き渡し及び処理費用負担の義務、生産業者または輸入業者は使用済み家電の処理の義務を負うといった、異なる対象について異なる義務を設けている。家電リサイクル法の背景には、使用済み家電に存在する大量の有害物質について個人での処理が難しいこと、そして日本の国土面積の狭さと使用済

み家電の増大という矛盾が顕在化していたこと、さらに使用済み家電には大量の金属や非金属資源が存在することなどがあった。

次いで、この日のメインである実地見学となった。私たちはまず展示コーナーにおいて各種家電の回収の原理・効率・発生する収益等について概ね理解した後、解説スタッフの案内の下、工場の見学専用通路に沿って工場内の空調・冷蔵庫・テレビ・洗濯機等各種家電の回収リサイクル過程を上から観察した。見学を通じて私たちは技術の力に感心せざるを得なかった。工場内の機械化レベルはとて高く、人が担当する部分は限られていた。それと同時に、生産ライン上の細かな部分に表れていた労働者保護そして人間本位の精神に感動させられた。解説スタッフからはスタッフの作業着について詳しい紹介があり、とても厚い手袋、革靴に防護用の鉄板を付ける等、それらに示されたヒューマンケアについて私たちは感心させられた。



最後は質疑応答のコーナーであった。質疑応答ではとても和やかな雰囲気の中、学生たちはリサイクル技術、財政支援、法律・法規、企業の社会的責任及び従業員の福利厚生等幅広く積極的にたくさんの質問をし、スタッフからは丁寧な回答をいただいた。

皆はもっと続けたそうにしていたが、時間の関係で、最後は同センターのホールで記念撮影をした。パナソニックエコテクノロジーセンターの「トレジャーハンティング」そして「商品から商品へ」の理念は私たちの脳裏に深く刻まれた。

なぜですか？

問：パナソニックエコテクノロジーセンターの工場内にはどのような健康面の福利があるのか？

答：従業員は年に3度健康診断を行い、使用済み家電中の水銀やフロン等の処理をするといった特別な部署については、追加の健康診断を行う。同時に従業員の安全を保障すべく、業務環境に対する検査を毎年2度行っている。

問：家電製品の有料回収に対する日本の人々の意見はどのようなものか？

答：パナソニックエコテクノロジーセンターの見学後に行うアンケートによると、見学前は、約半数の人が回収費用について高いと考えているが、見学後にはその割合が30%に減っている。

問：水質汚染を防ぐために、パナソニックエコテクノロジーセンターではどのような取り組みをしているのか？

答：まず定期的に水質の検査を行い、検査結果を周辺住民に公開している。また工場内には水処理設備があり、水を規定値まで浄化した後に排出している。そして内部で処理が難しい汚水については、専門の処理工場に輸送し処理を行っている。

感想

私たちはパナソニックエコテクノロジーセンターにおいて、その詳しい解説と実際の工場見学を通じ家電リサイクルのプロセスや意義について知り、環境保全行為への理解を深めることができた。その中でも印象深かったのは以下の

三点である。

一つめはパナソニックの環境保全の理念である。企業の発展と同時に、パナソニックでは地球環境との共存、環境立社の理念を確立しており、さらに企業市民活動、社会への取り組みそして環境への取り組みといった「三大責任」を積極的に押し広めている。家電のリサイクルにおいては、「トレジャーハンティング」、「商品から商品へ」の理念を打ち出し、再利用可能な資源を最大限回収し、資源の循環利用に繋げている。パナソニックは環境保全の理念を実際の行動に反映させ、さらに環境保全の理念を工場見学のプロセスを通じて素晴らしい形で他の人々へ伝えている。二つめは実際の見学において知った各リサイクル技術である。使用済み家電の構成分析を通じ、段階的に使用済み家電を分解し、再利用可能な部分を一つひとつ順に回収する。工場内の機械化処理レベルは高く、処理のプロセスにおいては、異なるプラスチックの水中での浮力の違い、また特殊な光線を照射した後の反射波長の違いを通じ素早く効果的に仕分けをする、そして金属の電磁反応を通じ金属とプラスチックを分離する等、異なる物質の性質をうまく応用している。これら多くの性質について私たちは知らないわけではないが、こうした性質をこれほどまでに効果的に利用し速やかな仕分けを行うという知恵には、とても驚くと同時に感心させられた。三つめはパナソニックエコテクノロジーセンターのヒューマンケアである。同社では厚い防護服の他、年に3度の健康診断によりスタッフの健康を守っている。またその中で印象深かったのは、のこぎりの改善プロセスの紹介であった。のこぎりは専門的な研究を通じ特殊な筋目を加えることで騒音低減を実現し、スタッフにより良い作業環境を提供している。さらに、福祉施設と提携し、身体にハンデを持つ人々にも多くの働く機会を提供している。

今回パナソニックエコテクノロジーセンターの見学を通じ、パナソニックの環境保全理念や家電リサイクルのプロセスについて詳しく知ることができ、とても感謝している。人と地球は共存しており、環境保全について私たちはさらに多くの事を行う必要がある。リサイクル技術の発展や回収効率の向上、そしてより多くの人が環境保全事業に加わることにより、未来はより輝かしいものになると信じている。